

日本小児病理研究会 会報 第41号

2007年3月20日

総務幹事 堀江 弘

1. はじめに

今年は新年度を迎える前に病理学会総会が終わってしまい、何となく気が抜けたような感じですが、皆さんはいかががでしょうか？3月末になり一次的な寒さのぶり返しがみられましたが、彼岸前に沈丁花の香りが漂い、こぶしの花が咲き、桜の花がほころび始めるなど、これまで経験したことのない暖かい冬であったことを実感しています。寒さに弱いので楽だったのですが、雪国のことを考えると冬は程々の寒さでなければと感じています。これも全て地球の温暖化によるものなのでしょうか。

本会報では会員名簿の作成に関するご案内と関東ならびに関西地区での研究会の記事を中心に記されています。本邦ではこれまで各種の固形小児腫瘍に関する研究グループが立ち上げられ、それぞれ別個に活動してきましたが、将来的には成人がんの臨床試験グループである JCOG のような組織の設立を目的とし、「小児固形がん臨床試験共同機構」の設立への議論が高まってきました。その第一段階として、各臨床試験グループに共通する部分のリソースを共有化、すなわち効果安全性評価委員会、研究審査委員会等の共通化が具体化しつつあります。皆様には既にご存じかと思いますが、その概要について会員の皆様にも知っていただきたく、設立準備会議よりのお知らせを掲載させていただきました(下記参照ください)。最後になりましたが、今年の研究会は静岡県立こども病院臨床病理科・浜崎豊先生のお世話で、国立成育医療センターにおいて開催されることになっています。詳細なご案内は次号に掲載されることと思いますが、先生方には研究会に向けてのご準備をよろしくお願いいたします。

小児固形がん臨床試験共同機構の設立に向けてのお知らせ

各臨床試験グループ参加施設各位

現在、小児固形がん臨床試験グループとして横紋筋肉腫、神経芽腫、ユーイング肉腫、ウイルス腫瘍、肝芽腫、脳腫瘍が活動をしていることは皆様ご存知のことと思います。また、各グループとも立ち上げ、組織構築のために多大な労力と時間を費やし、いくつかのグループはこれから組織構築を行わなければなりません。しかも一旦立ち上がった後も、その運営に多額の費用と人的資源を必要とすることもご存知の通りです。しかし、そのような資源を必要としながらも、どのグループも対象とする症例数が少ないという宿命的な課題があり、得られる結果を考えた場合、極めてコストパフォーマンスが悪いといえます。

このような事態に対応するために、各臨床試験グループで共通する部分のリソースを共有することで経費、労力の無駄を省き、より効率の良い運営を可能にする試みを行うことが各臨床試験グループ代表者に提案されました。それを受けて6月24日に各臨床試験グループ代表者が初会合を持ち、以後合計3回にわたって話し合いを行いました。まず、現在存在する臨床試験グループの独立性を担保し、これまで通り独自の活動を行うことを前提として、すべての臨床試験グループに必須の機能から整備を行うこ

とが合意されました。具体的には効果安全性評価委員会、プロトコルレビュー委員会、研究審査委員会を共通化することが考えられます。実際的には、これら委員会を、現存の各グループの委員に必要であれば数名を追加して構成し、それぞれの課題に応じて担当を決めて審査にあたるということになるかと思えます。また、同時に現在個別に行われている各種委員会や研究会の共同開催なども検討課題となります。

その後さらに、化学療法委員会、外科委員会、放射線委員会などの共通化（前述の委員会と同様の方法での委員会構成〔要検討〕）、事務局業務の整理（各試験事務局とは別のオペレーションを行う機構〔要検討〕）、データセンター、組織バンクの整備、さらにはそれらを運用するための協議会の設立が必要になります。ただし、各臨床試験グループの完全な独自性を保証するため、組織はインターグループの体裁をとることになると思います。

将来的には成人がんの臨床試験グループであるJCOGのような組織を設立できればと考えておりますが、これについては皆様のご理解とご協力がなければ達成することが不可能であり、皆様に時間をかけて議論していただく必要があります。従って、当面は小児固形がん臨床試験共同機構の設立を目指し、軌道にのった段階でその組織を中心に次へのステップについて議論していくのがよいのではと考えております。参考までに以下に小児版JCOGの設立の意義をいくつか列記しておきます。

1. 人的資源、経費の効率化
 2. 対外的な認知度の向上
 3. 計画的な研究費獲得
 4. 現在研究対象となっていない癌腫を対象とした研究の実施
 5. 癌腫横断的な治療開発（新規薬剤の第I, II 相試験は複数癌腫を同時に対象とすることが多い）
- なお、われわれの活動はあくまで共同機構設立のための設立準備会議であり、当面はこの会議から提案をさせていただき、それを各グループで審議いただくという形で進めさせていただきたいと思えます。また、この会議はあくまで暫定的なものであり、必要に応じて規模の拡大、あるいは発展的解消するものであることを申し添えます。以上の件につきまして、皆様方のご理解と了承ならびにご協力をお願い申し上げます。

平成18年10月

「小児固形がん臨床試験共同機構」設立準備会議

日本神経芽腫研究グループ：金子道夫

日本横紋筋肉腫研究グループ：森川康英

日本ウィルムス腫瘍スタディグループ：福澤正洋

日本ユーイング肉腫研究グループ：麦島秀雄

小児肝癌スタディグループ：檜山英三

日本小児脳腫瘍コンソーシアム：原 純一

小児がんデータセンター長：牧本 敦

国立成育医療センター総長（組織バンク）：秦 順一

オブザーバー 中川原 章

2. 地区集会について

- 第103回 関東東海地区病理研究会 2006年2月3日 於：国立成育医療センター
1. 肺低形成、胎児水腫 浜崎豊（静岡県立こども病院）
 2. 左心低形成症候群 田中水緒、佐藤由紀子、田中祐吉（神奈川県立こども医療センター
以下こども医療センター）
 3. 左側脳室腫瘍 堀江弘（千葉県こども病院）
 4. 後腹膜腫瘍 北條洋、箱崎道之、阿部正文（福島県立医科大学）
 5. 前縦隔腫瘍 中川温子、大喜多肇（国立成育医療センター）
- 第104回 関東東海地区病理研究会 2006年6月2日 於：国立成育医療センター
1. 右耳介後部皮下腫瘍 浜崎豊（静岡県立こども病院）
 2. 粘液嚢胞(Blandin-Nuhn 嚢胞) 田中水緒、佐藤由紀子、田中祐吉（こども医療センター）
 3. 右背部腫瘍 堀江弘（千葉県こども病院）
 4. 右膝外側腫瘍 北條洋、箱崎道之、阿部正文（福島県立医科大学）
 5. Wegener 肉芽腫症 渡辺紀子、松岡健太郎、中川温子（国立成育医療センター）
 6. 羊水過多症 松岡健太郎、渡辺紀子、中川温子（国立成育医療センター）
- 第105回 関東東海地区病理研究会 2006年10月6日 於：国立成育医療センター
1. 頸部腫瘍 高場恵美、浜崎豊（静岡県立こども病院）
 2. 右頸部腫瘍 堀江弘（千葉県こども病院）
 3. 右腎腫瘍疑い 北條洋、阿部正文（福島県立医科大学）
 4. 二卵性一絨毛膜性双胎 渡辺紀子、松岡健太郎、中川温子（国立成育医療センター）
 5. Alagille 症候群 佐藤由紀子、田中水緒、田中祐吉（こども医療センター）
- 第106回 関東東海地区病理研究会 2007年2月16日 於：国立成育医療センター
1. 水頭症 松岡健太郎、中川温子（国立成育医療センター）
 2. イレウス、悪性リンパ腫疑い 高場恵美、浜崎豊（静岡県立こども病院）
 3. 重症感染症、多臓器不全 佐藤由紀子、田中水緒、田中祐吉（こども医療センター）
 4. 頭痛、左片麻痺 北條洋、阿部正文（福島県立医科大学）
 5. 先天性重症貧血 田中水緒、佐藤由紀子、田中祐吉（こども医療センター）
- 第56回 関西小児病理研究会 2006年6月24日(土)
- 於；大阪市立総合医療センター 世話人 吉田 牧子（兵庫県立こども病院）
- 症例検討 6題
- 第57回 関西小児病理研究会 2007年1月13日(土)
- 於；大阪市立総合医療センター 世話人 中山 雅弘（大阪府立母子保健総合医療センター）
- 症例検討 6題
- 次回開催予定
- 第107回 関東東海地区小児病理研究会
- 於；国立成育医療センター 2007年6月8日(金) 18時～

3. 事務局より

1) 平成16年度会費について

平成16年度会費につきましては多くの会員の皆様よりお振込みいただきありがとうございました。この場を借りて御礼申し上げます。

2) 会員名簿更新に関して

会員名簿の更新については前号にて掲載の可否についてのご希望を募りましたが、掲載を希望されない旨のご連絡はいただきませんでした。つきましては、会員の氏名、所属、連絡先住所（会報等送付先）、電話番号、E-mail アドレスを掲載した会員名簿の作成に入らせていただきます。

3) 第27回日本小児病理研究会は2007年9月8日(土)に静岡県立こども病院浜崎豊先生のお世話で、国立成育医療センターを会場として開催される予定です。主題は小児呼吸器疾患についてです。詳細につきましては、次号にてお知らせいたします。

4) 日本小児病理研究会の入退会につきましては、E-mail または FAX にて事務局へご連絡ください。なお、本会報の発行、送付が大変遅くなりましたことをお詫び申し上げます。

日本小児病理研究会事務局
〒157-8535 東京都世田谷区大蔵 2-10-1
国立成育医療センター臨床検査部病理検査室内
松岡 健太郎
TEL : (03)3416-0181 FAX : (03)5494-7136
E-mail: matsuoka-k@ncchd.go.jp
本研究会のホームページ：
<http://www.ibmd.jp/~jspp/>